

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ばすぼ2号館		公表日		令和7年3月31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	・活動内容によっては、適切ではない状況もある。 ・部屋が3つに分かれているので、スペースの確保ができるようにその都度移動を促し、密にならないようにしている。	・全員が適切な休憩・休日を取得できるよう更なる増員が急務。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	2	・配置基準は満たしている。 ・個別対応ができる配置にしている。	・基本的には適切だが、偏りが出る日もある。 ・基本的に各部屋にいるが、偏りがある場面が見られる。 ・基準人員は満たしているが、送迎時間が重なった時の人員確保が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3	・子どもたちが入っては行けない場所に張り紙をしたり、順番を待つ場所には床に目印をしている。	・外階段(石)は建物の構造上手すりがつけられていない為、安全とは言えない。職員のサポートが必須。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2	・3部屋をそれぞれ「運動の部屋(バランスボールや柔らかいボール遊び等)」「静かに過ごす部屋(お絵描きやカード遊び、アイロンビーズ、折り紙等)」「玩具を使う部屋(プレイルーム2)」に分けて空間作りを行っている。 ・支援後のトイレ掃除や各部屋の掃除機や拭き掃除、また、玩具や文具の整理整頓を行っている。	・玄関ぐらゐは、朝一番に掃き掃除要。 ・相談室がすぐに散らかる。常に整理整頓。 ・厳しい見方をすると、子どもとの関わりも「そう」ではないかと見られてしまう。そう見る人もいる。 ・ばすぼに到着後の手洗い、「うがい」のうがいは「カラカラうがい」のはずであるが「カラカラうがい」になっているのか疑問である。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	・態機応姿に対応できていると思う。 ・気持ちの切り替えを目的とした個別対応ができる部屋の確保を態機応姿に行っている。	・クールダウンの部屋を以前のようにまた確保できるようにしていきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	・朝礼、昼礼、終礼を活用している。	・朝礼に関しては、送迎時間の関係でできない時もある為、その都度、連絡事項や決定事項については専用のLINEを使っている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	3	・例年行っており、業務改善に繋げている。	・今回の自己評価表を含め参加者が初めての職員が多く、周知できるようにしていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	・朝礼、昼礼、終礼を活用している。 ・必要に応じて個別支援会議を行い、社員だけでなくパートも参加できるようにしている。	・ミーティングや意見交換の場を設けることで、情報の共有を行っているが、さらに密に意見交換を行う必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	6	・外部評価は行いたいと思っている。	・外部評価については、把握していない。 ・第三者とは誰ですか? ・現時点では、外部評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	・事業所内研修、外部講師による社内研修、外部研修に参加している。	・福祉経験の浅い職員もいる為、今後は基礎研修等を行いながら、職員のスキル向上に努めたい。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	4	・令和7年2月1日に作成し、2月18日より保護者に周知。2月21日にホームページにて公表している。	・公表については知らない。 ・全職員への周知が課題。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	2	・保護者様一人ひとりとどの面談等を通し、アセスメントを実施、計画を作成している。	・アセスメントについては把握していない。 ・会議等での共有をしていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	4	・計画作成時期だけでなく、支援についての共通理解のもとで会議を行い計画の作成を行っている。	・計画を目にする機会は少ない。 ・児発管が計画を作成しているが、今後は全職員への共通理解が必要。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	3	・日々の個別支援記録に計画を記載し、常に確認しながら支援ができるようにしている。	・個別支援記録に記載されているが、計画に沿った支援が難しいこともあるので、改善していきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	4		・アセスメントについては知らない。 ・インフォーマルアセスメントを準備できていない。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	2	・ガイドラインに沿って、一人ひとりに応じた計画を作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1	・社員で活動プログラムの立案を行っている。 ・参考意見はパート職員からも受けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	3	・季節や行事等を意識した活動プログラムも立案している。また、固定曜日利用の子どもたちが同じ活動にならないようにしている。	・案はあるが、当日利用者によっては難しい活動となる為、固定化しつつある。

の提供	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	3	・子ども一人ひとりの課題に応じて、個別活動や集団活動での計画を作成して支援に望んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	・支援開始前に、まず社員でのミーティングで打ち合わせや引き継ぎ等を行い、パート職員が出勤後に再度ミーティングを行いチームでの体制を整えている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	・気付きを共有する場を設けることができていると思う。 ・出来る限り短い時間内でも行うようにしている。 ・ただ、送迎等の遅延で全員が揃わない時には、LINEでの共有を行っている。	・帰る時間が揃わない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	1	・個別支援記録に記入している。 ・個別対応が必要な子どもたちには、専門の研修を受けて資格を持つ職員が記入を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	3	・半年に一回は行い、計画の見直しにつなげている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	4	・「4つの基本活動」についてはガイドラインを見ながら行うようにしている。	・全職員が周知していないことが課題。今後は、意識して支援ができるようにしていきたい。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	3	・子どもたち一人ひとりの課題に寄り添いながら、自己決定ができるような声掛けや促しを行っている。	・社員のみならず、全職員のスキルの向上を行い意識した支援ができるようにしていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	1	・児発管のみならず児童指導員（正社員）も参加している。特に、個別サポートが必要な子どもたちの会議には、専門の資格を持った職員が必ず参加できるようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	2	・併用している子どもたちについては、併用先の放課後等デイサービスとの連携を行っている。 ・博多区の機関との情報の共有も必要に応じて行っている。	・地域の関係機関が把握できていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	2	・学校との情報の共有は、お迎え時や電話等で必ず行っている。特に、トラブル発生時には、担任との連絡も行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	6		・知らない。 ・分からない。 ・就学前の情報共有については把握していない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	3		・分からない。 ・卒業児については見ていないため、把握していない。 ・今後は、必要に応じて対応していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	5	・外部研修を行っている。	・機会はない。 ・地域の児童発達センターとの連携は今のところないので、今後は検討したい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	8		・コロナ禍ゆえに状況、仕方ない。 ・児童館との交流は把握していない。 ・現在は、行っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	8	・必要に応じての参加はあった。	・実態を把握していない。 ・今後は、研修等にも参加していきたい。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	1	・送迎時や連絡帳、電話、LINEで行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	7		・支援の手は家族にまで及んでいない。 ・今後、検討していきたい。
保護者	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	2	・新規契約時や利用予定表、また、ばすば通信「かみひこうき」で行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	1	・事前に保護者様には聞き取りを行い、意向を伺っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	2	・面談や送迎時に説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	2	・家族からの相談に対しては、真摯に向き合いながら悩みの相談を受けている。また、必要に応じて、電話だけでなく面談の日時を決めて対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	8		・実態を把握していない。 ・以前は、行っていたので今後また検討していきたい。

への説明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	2	・グループLINEで共有する等の工夫ができている。 ・苦情に対しては、児発管が迅速に対応している。	・児発管への報告が遅れず、その都度迅速な対応が取れるようにしていきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	1	・月に1回のばすほ通信「かみひこうき」や利用予定表、また、行事ごとのインスタグラムを発信している。 ・また、「かみひこうき」では、毎月の発行以外にも、長期休みの特集号を配布して、活動の様子を写真で伝えている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	1	・個人情報の取扱いについては十分留意している。	・理解できていない職員がいないように徹底指導していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	1	・視覚的配慮を行い、意志疎通ができるように配慮している。	・今後は、お便りの書体や色についても配慮していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	7	・地域の公園活動等で、一緒に遊ぶことはある。	・コロナ禍の中、難しい。 ・現在は行ってない。今後は検討していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	2	・マニュアルは作成している。 ・令和6年10月の車両事故により事故防止マニュアルの見直しを行っている。	・訓練までは出来ていない。 ・交通事故が続いている。 ・けが人が続いている。 ・全職員が安全運転を心掛け、2度と事故を起こさないような危機管理を持つように指導している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	3	・業務継続計画（BCP）を策定している。	・全職員の詳細の把握が必須。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	1	・事務所に貼りだしをしている。 ・アセスメント時に行い、また、フェイスシートに記入している。	・全職員の把握が必須。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	3	・医師の指示は受けていないが、保護者より注意事項を伺っている。	・全職員の把握が必須。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	3	安全管理に必要な会議等は行っている。	・避難訓練は済。 ・交通事故発生後の報告等の初動が論外。必ずば管理者への報告及び警察への連絡がなされていない。直ちに報告するのは、社会一般の常識。事故発生時は、パニックになるから報告が上手くできないこともあるとこれが通ってしまうと万が一人身事故が発生した場合、間違いなく逃げた心配になる。 ・今後は研修や訓練等を実施しながら支援に繋がれるようにしていきたい。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	3		・今後周知していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	2	・ヒヤリハットについては、全職員で共有している。その都度記録に残しながら、再発防止に向けた方策を検討している。 ・令和7年1月31日にヒヤリハットに多雨する研修（外部講師による）を行っている。	・方策があまりされていないと思う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	1	・事業所内での研修は行っている。	・今後は外部講師による研修を行っていくたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	3	・身体拘束の必要はない。	・身体拘束の必要はないので、サービス計画には記載していないが、子どもの様子等を保護者に説明を行い命の危険を感じた場合にのみ了解を得る必要はあると思う。	

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ばすぼ2号館		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 18日 (火)		～ 令和 7年 3月 5日 (水)
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18人	(回答者数) 11人
○従業員評価実施期間	令和 7年 2月 19日 (水)		～ 令和 7年 3月 5日 (水)
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	管理者兼児童発達管理責任者 1名 児童指導員 (正社員) 4名 児童指導員 (パート) 1名 指導員 3名	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 31日 (月)		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 日々の活動や様々な行事等の活動を企画し、子どもたちにいろんな体験や経験(室内での運動や制作活動、クッキング、室外での買い物学習や外食体験、体育館での運動や競技、施設等の社会科見学、就労体験、他事業所との交流体験)ができるような活動を提供し、社会的自立に向けての取り組みを行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の活動が固定化しないように、活動内容は事前に話し合いながら企画しています。また、曜日固定の子どもたちにも配慮しながら、様々な活動を提供しています。 支援者一人一人の得意な活動(ダンス、調理、運動、制作等)を活かして子どもたちの療育に繋がっているような取り組みを行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい活動内容を企画し、子どもたちにより多くの体験や体験を増やしていきながら、子どもたち一人一人の個性や強みを発見できる活動に繋がっていきたくと思っています。 また、他事業所との交流を図りながら、事業所以外の友だちとの関わり方や過ごし方について、より多くの体験や経験ができるようにしていきたいと思っています。
2	<ul style="list-style-type: none"> 建物の形状が戸建てで庭があるので、より家庭的な雰囲気の中で子どもたちを迎えることができます。 その中でも、クッキング等の活動ができるようなキッチン設備が充実している為、行事の時だけでなく日頃のおやつ提供時にも子どもたちと一緒におやつ作りやおやつ係を楽しみながら活動に繋がっていくことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内環境が3部屋に分かれていることを活かして、それぞれの部屋を、「運動の部屋」「静かに過ごす部屋」「玩具等を使って遊ぶ部屋」、また、「庭での遊び」に取り組んでいます。 特に、「庭遊び」では通常の遊び以外にも「草取り」や「園芸」等を通して植物や小さな生き物に触れ合える体験を意図し、活動に取り入れる工夫ができるようにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 限られた空間の中で、友だちとの関わり方や遊び方を学んでいくことができるような活動を提案していきたいと思っています。 それぞれの部屋の特性を有効に活用しながら、多くの体験ができるようにしていきたいと思っています。 特に、「庭遊び」では、バーベキュー等の活動を取り入れ、設営班や調理班に分かれて自分たちでできる作業を増やしていくことができるようにしていきたいと思っています。
3	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回のお便りの配布では、子どもたちの活動の様子がわかるように写真やコメントを載せています。 また、インスタグラムを活用しており(ご契約されている保護者様のみ閲覧可)写真だけでなく動画を配信することでより詳細に活動に参加できている子どもたちの様子をお伝えすることができます。 事業所内での研修については、正社員及びパートも含めて外部講師を招いて行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> お便りやインスタグラムで子どもたちの様子をお伝えすることで、保護者様へお子様がどんなふうにもその活動に参加することができていたのかを知っていただき、今後の利用について安心感をもってほしいと思っています。 支援者は(正社員・パート)それぞれの経験年数に違いはありますが、基礎研修からの学びを通して統一した支援ができるように日々会議を行っています。 ただ、支援者(正社員・パート)は勤務がシフト制の為、子どもたちの様子や支援会議での決定事項については、2号館専用のグループLINEで情報の共有を行いながら支援を行える環境にしています。 	<ul style="list-style-type: none"> インスタグラムの投稿に関しては、写真や動画だけでなく活動の内容についての子どもたちのリアルな発言や感想も載せていながら、どんな療育に繋がっているのかを可視化して、更に保護者様には安心して利用して頂けるような信頼関係を築いていきたいと思っています。 送迎時やLINEでの保護者様からの要望や伝言についても漏れがないように努め、より一層の信頼が得られるようにしていきます。 研修を行うことで共通理解を得ていながら、適切な支援や療育ができるように支援者のスキルや意識を高めていきたいと思っています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の7月より新体制が整ったものの、ばすぼ2号館での経験が浅い支援者が多いこともあり、子どもたちや保護者様に対して不安な状態があると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年3月にばすぼ(1号館)が休止になったことで、子どもたちにも影響がきてしまい、利用日数の調整や他の事業所との併用をお願いしたことで、不安に繋がったと思います。 関係性のできていた支援者が退職したことで、子どもたちの取り巻く環境ががらりと変わり、信頼関係の構築に時間がかかってしまっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと支援者の関係や、子どもたち一人一人の特性に合わせた療育ができるように支援者同士の情報の共有や支援内容についての会議は時間をかけて行っています。 保護者様には、その部屋LINEや電話、また送迎時の引き継ぎの際にお伝えしていき、安心して利用していただくことができるように意識をしています。 保護者様から寄せられたいろんな相談や悩みにも寄り添いながら、サポートができるようにしていきたいと思っています。 特に、支援についての必要な情報を常に把握しながら迅速な対応に努めていけるようにしていきたいと思っています。 また、送迎時やLINEでの保護者様からの要望や伝言についても漏れがないように努め、より一層の信頼が得られるようにしていきたいと思っています。
2	<ul style="list-style-type: none"> 事業所運営のマニュアルや管理者・児発管が行っている基本的な事柄についての共通理解ができていなかったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 入社時に放課後等デイサービス事業に対する基礎研修やマニュアルについての研修の実施ができていませんでした。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入社員やパートに対しては、同じように共通理解を求めて、基礎研修やマニュアルについての研修等を必ず行い、「知らない」「わからない」等の発言がないように徹底していきたいと思っています。 また、より良い療育や運営への知識を深めていきたいと思っています。
3	<ul style="list-style-type: none"> 車両事故や支援者の怪我が続いていることで、保護者様の不安に繋がっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者一人一人の危機管理に対する認識や知識の低さが原因と考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> 運転マニュアルの周知や送迎時の添乗員の席の配置等の改善を行い、支援者一人一人が安全運転を心掛けると共に、送迎中の車内が子どもたちにとって楽しい雰囲気となるようにしていきたいと思っています。 今後は、研修も定期的に行い安全運転に努めて行けるようにしていきたいと思っています。